

新聞名	日経・朝日・毎日・読売・静岡・中日・その他()
掲載日	9月27日 (朝刊)・夕刊 27 ページ

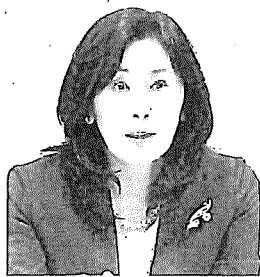
静岡新聞社 第25回「読者と報道委員会」

特集
「ソノ仕事×コノ絶景」
「ワタシ、シズオカ人」

「一、特集『ソノ仕事』×コノ仕事は、記者が一般のひと々から取材を依頼して、そのひと々が自分の目にした仕事を紹介しています。『真・レナウト』も含め、思い切った遊び心にも見える『工夫』は、脳の見たてにふさわしいと思います。」

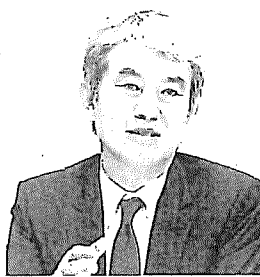
伊東義典生まじき写真が
印象的で、記事も面白く、登場す
る人物が、その仕様にやがたいと
誇りを感じている雰囲気や伝わ
る。同時に、この仕掛けから
どのようなものかなと考えさせ
られ、何度も読む。後援者とい
うのか、いつまで残るとができる
のか、気持ちよく入込んだ。
内山委員、それぞれの仕事に対
する考え方が人間から読み取れ
る。やりたい職業に就く人はす
いと思ふ。

鎌田真貴 写真にインパクトが
あり、記を読む前から、人物の情
熱が飛び出してくる。仕掛けは作
と違い、心を養えたり考えたりす
るもの、責任の重さや熱意を感じ
る。若い世代にも興味を抱かせき
む記事となす。それぞれの思いを
現場でと事なアイテムを紹介する
ミニコーナーは、単に王、を紹介
するのではなく、王を通して、人
物を感じられることがポイント
だと思う。



鎌田 裕子委員

かまた・ゆうこ 聖隷浜松病院
などで看護師として勤務後、聖隷
福祉事業団で人材開発部長などを
歴任。2017年1月から同事業団初
の女性常務執行役員。浜松医大
大学院修士課程修了。掛川市出身、
浜松市在住。



内山 義郎委員

「うちやま・よしろう 1979年スルガ銀行入行。営業本部部長を経て2002年取締役、常務取締役などを経て16年6月から一般社団法人企業経営研究所理事長。明大経営学部卒。伊豆の国市出身、三島市在住。」



伊東 幸宏委員

いとう・ゆきひろ、1990年静岡大工学部助教授、同大情報学部教授、情報学部長を経て2010年から16年度末まで同大学長。17年度からフotonパレーセンター長。早大大学院修了。工学博士。東京都出身、浜松市在住。

静岡新聞の「霧と報道委員会」は13日、静岡市駿河区で発刊会を開いた。諸報は現職と新人の「騎手」をこなした月別の知事選入々々をさまざまな営みに対する特選連載「仕事×××」絶頂とワタシズオマケ「プロトバリエーション」長の伊東幸弘委員、企業経営研究所理事長の内山誠郎委員、聖霊信社事業部事務長役員の鎌田信孝委員の3氏が本誌側へ意見交換した。

（進行は松村恒裕編集長同席）

知事選報道

選挙に関する日々の動きを追うニュース報道はもちろん、連載、単発の読み物や卓政分析・検証を掲載し、さまざまな切り口で紙面展開しました。

低投票率は社会的問題

伊東委員

舞台裏取材 記事に迫力

内山委員

将来展望含めた情報を

鎌田委員

事實を知り、半信する。今回の記事報道は迫力があり、今回新新聞の取材力に驚いた。特に4月27日付朝刊の連載「水面下の確立運動」下の「留守篇」に『出馬篇』。私の周囲でも話題に上り、読者の強い興味を引いたと感じた。一連の記事は県内のさまざまな事象を掘り下げ、課題として並べた。!

かし書き手からすれば拙劣なところでも、読者は現職の実績と読みあつた面もあったのではないかな。■内には多くの問題がありながらも、回選では争点にならなかった。

鎌田委員 現職知事の「優れ人がいればバトンタッチしたい」

報道では期8年務めた現職の政治姿勢や実績、それに対する県民の目線に着目し、読者に投票行動の判断材料を提供するために力を盡きました。投票結果も速報で、今後、選挙報道は「あるべき」でしょうか。

内山 委員 会員制交流サイト(SNS)やフックエクスなど多様な情報がある中、投票先を真剣に考える人は種類でできるタイプの考え方が多い。一審判官性の高い新聞の論評を参照したい」というのは選挙の大小

や「投票率がら割を切れれば選挙は無効」の発言があり、知事が脱税するのが注目して記事を読んだ。昨々、政治家の失言を耳にした中で、知事の発言がどたばた真剣味を帯びているのかも気になった。

「投票率5割！」の発言自体は撤回されたが、農民としては美談の投票率の行方に関心が向かう。19歳の投票行動も含めて、選挙報道の期間は紙面を通じて、選挙

景」「ワタシ、シズオカ人」
 言う読ませ方と見せ方がある。
 レイアウトに趣向を凝らすと
 メディアなど、新聞の新たな可
 探ってきた。
 は、絶景や外国人という条件を
 描く点、限られた取材時間の中
 と表情をすくい上げるように
 に、仕事の道具一つを紹介する
 迫る視点の必要性を改めて感じ
 らし。さまざまな匂いが混ざり
 取材対象同様に、気取らず生活
 してきたい。
 (文化生活)

日中の二事業を月をこなし、記事を書き、
 極端に忙しなく思い込んでゐる、さま
 ざまな意見があることを情報として
 示すことも検討し、
 鎌田委員 異政は、大きく変わ
 り、チャレンジしていかなくてはな
 らない状況にある。静岡県を発
 展させていくために新聞新聞の
 記事は大きな情報源にある。社会
 企業、地域、いろいろな情報を知
 りまとめて記事にしている。多
 角的な視点を見て、過去、現在
 未来と時間軸を併せて、将来の展
 望を含めて読者に伝えてほしい。
 平等性、信頼性、そして改革的な
 視点を盛り込んだ記事を期待して
 いる。

関はあつたと思つたが、投票率は46・44%と低傑した。選挙自体の関心と無関係の投票行動を占めるのは、少し違つて観念が切り込んでいるかなとはいつても、社会的問題だ。政治への関心を高めていくのと同時に、行動に結び付けていくことは社会の義務。各方面との連携の中で新聞社も力を発揮してほしい。米国大統領選と比較すると、日本の報道陣は比較的に

新たな姿勢感じる紙面
ビジュアルの力再認識
若者にも意気吹き込む

もう一つの特異連載「ワタシ、シズオカ人」は、奥門で事業を展開する外国人の異聞記です。単なる人物紹介ではなく、地域を駆け込む過程に権威が託されています。

日本郵政 本誌の専ら、新聞

伊東委員、こちらの連載も、いろいろな仕事をしている人が出てくる、これがまずです。外国人が当たつ前、のうちに身近に社会になつてゐる。母国の文化を育んで活動する人もあれば、日本での暮らしを受けて働いてもいい、ここに多様性がある。写真の

して、来日後に県内で起業する人は海外というのなだと思つた。紙面は、記事よりも先に写真に目が行くことを生かして、ビジュアルで興味を喚起させ読者を惹くことができた。興味があれば自分で調べる行動面を見たりすれば探知でき、き今後のメディアの姿を暗示している。

知つてとするのは興味深く読んだ。さきさき外国人が母親を大切にしながら、語中で活躍し、金銭でとれる。読んでもる人は、ちも記事からビジュアルをもええる。楽しく、和の記事も新聞には大事という観点に、今後も注目している。

■知事選報道　知事選は地方紙にとって重要なテーマの一つ。取材各部門、総編集、整理部など編集局の総力を挙げて臨んだ。今回の知事選は当初から民不逞で、争点不明の色合いが濃く、水面下の動きをしっかりと捉え捉えなければ、読者には「現職は強かった」という単純な印象しか残らなかったかもしれない。丁寧に過程を逐次発信することの大切さを実感した。権力のチェックという本来の使命を再認識し、果敢取材を続けていく。

低投票率については委員から新聞社として投票行動に結びつける取り組みができないかと問題提起があった。選挙のたびに工夫を試みるが、今のところ妙案はない。新聞の「信頼性」を強みに、県民の意識を喚起する手法を引き続き探りたい

(政治部)

編集局から

(文化生活部)